

平成 28 年度学校教育モビリティマネジメント（MM）の概要

- 横浜市での学校教育MMは、平成 24 年から実施しており、本年度で 5 年目になります。
- 学校教育MMは、子どもたちが大人になる過程の中で、自動車や公共交通など様々な移動手段を認識し、過度なマイカー利用を見直すことができるよう意識啓発を図るとともに、学習した子どもたちから家庭の交通行動の変化を促すことを目的に実施しています。
- 教育内容は、以下の4つの視点で行いました。このうち、【③遊び教育】を通じた学校教育MMについては本年度新たに設定したものであり、子どもたちの夏休み期間中における、はまっ子ふれあいスクールや放課後キッズクラブにおいて、主に1年生～4年生までの年齢層を対象とした取組です。

■学校教育 MM の種別

教育種別	学年層	テーマ
①環境教育	小学校高学年	まちで暮らす人々が、便利なクルマばかりに頼って生活することによる、交通渋滞の発生や、それに伴う地球環境や、人の暮らしへの影響などを学びます。
②バリアフリー（BF）	小学校 中学年～高学年	健常者、障害者、高齢者、妊婦など、誰でも自由に移動できる交通バリアフリーについて、実際のバリアフリー対応型の車両を使いながら、実体験とともに知識を学びます。
③遊び教育	小学校 低学年～中学年	バスやタクシー等の公共交通のクイズや、ペーパークラフトなどを使い、遊びの中から、バスへの興味を引き出し、またバスに乗るきっかけを作るための取組です。
④キャリア学習	小学校高学年及び中学	子どもたちが成長し、将来、社会に貢献する大人となっていく過程の中で大切な「職業」や「社会」のことについて学びます。

■平成 28 年度の実施校の一覧

日付	学校（対象）	人数	① 環境	② BF	③ 遊び	④ キャリア	備考
H28.7.7	霧が丘学園（5 年生）	109 人		●			市交通局連携
H28.7.26	豊田小学校（全学年）	47 人			●		はまっ子ふれあいスクール
H28.8.25	和泉小学校（全学年）	25 人			●		放課後キッズクラブ
H28.8.31	日野南小学校（4 年生）	68 人		●			神奈中バス連携
H28.9.21	奈良小学校（6 年生）	108 人				●	
H28.9.27	緑園東小学校（4 年生）	73 人		●			相鉄バス連携
H28.11.15	二俣川小学校（4 年生）	100 人		●			関東運輸局及び 神奈川県タクシー協会連携
H28.11.22	保土ヶ谷中学校（1、2 年生）	各回 40 人				●	
H28.11.29	一本松小学校（5 年生）	55 人		●			市交通局連携 (浅間町営業所開催)
H29.2.8	大道小学校（6 年生）	47 人	●				3年連続開催

■本年度の対象学校及び過年度までの実施学校

年度	環境出前講座 (地球温暖化と交通)	バリアフリー教室 (バリアフリーと交通)	その他
平成 24 年度	・深谷台小学校		
平成 25 年度	・荏子田小学校 ・鶴見小学校 ・もえぎ野小学校		
平成 26 年度	・大道小学校（1 年目）	・上白根小学校	・鴨居中学校（職業講和）
平成 27 年度	・小山台小学校 ・大道小学校（2 年目）	・浜小学校	・日限山小学校（公共交通に関する講座）
平成 28 年度	①大道小学校（3 年目）	②霧が丘学園 ③日野南小学校 ④緑園東小学校 ⑤二俣川小学校 ⑥一本松小学校	⑦豊田小学校（はまっ子ふれあいスクール） ⑧和泉小学校（放課後キッズクラブ） ⑨奈良小学校（職業講和） ⑩保土ヶ谷中学校（職業講和）

平成28年度 豊田小学校 はまっ子ふれあいスクール 出前講座 実施報告

『みんなで楽しむバスクイズ～もっと知ってほしい「バス」のこと～』

1 はまっ子ふれあいスクールでの出前講座

- 夏休み期間、横浜市立豊田小学校の「はまっ子ふれあいスクール」において、バスに関する出前講座を開催しました。
- 夏休み期間かつ「はまっ子ふれあいスクール」でのモビリティマネジメント出前講座は、横浜市として初の試みです。
- 出前講座は、バスに関する関心を促し、お出かけの際は、家族とともに、積極的にバスに乗ってもらうことをねらいとしています。

2 「みんなで楽しむバスクイズ」について

- 対象が小学1年生から5年生と幅広いことなどから、「クイズ」形式を採用し、バスの乗り方や特徴などを、楽しみながら学んでもらいました。
- 1年生から5年生まで、全ての年齢層が楽しめるように、体育館を使い、クイズの正解だと思う方に体ごと移動して回答してもらったり、クイズの合間に自由に質問を受け付けたり、工夫をしています。



3 授業を実施して

- 夏休み期間における「はまっ子ふれあいスクール」での実施は、学習と異なる時間の中で、楽しみながらモビリティマネジメントを学んでもらうきっかけとなりました。
- また、「はまっ子ふれあいスクール」での実施は、通常授業に比べ、比較的時間の確保がしやすく、子どもへのモビリティマネジメントを展開する「場」の一つとして有効に活用できると考えます。
- 子どもたちは、クイズの解答に一喜一憂し、正解・不正解に関わらず、今まで興味の無かったこと、知らなかつたことを知る機会になったと考えます。

■はまっ子ふれあいスクール 出前講座について

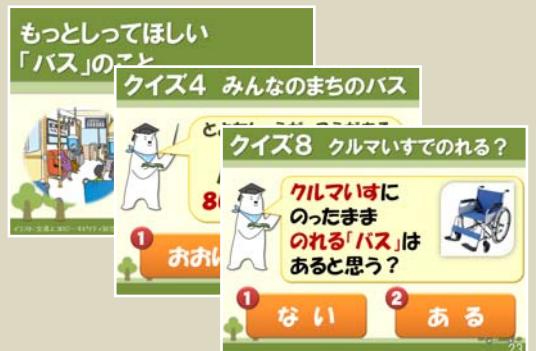
【日時】 平成28年7月26日(火)
10:00～12:00

【対象】 豊田小学校
はまっ子ふれあいスクール参加者
(小学校1～5年生混合 47人)

【内容】 みんなで楽しむバスクイズ
「もっと知ってほしいバスのこと」



■用いた教材(パワーポイント資料)



■クイズの内容(実際は「ひらがな」表記)

- ① 外国には、バスを3つも繋げた乗り物がある？
- ② 江ノ電バスは、「前」と「後ろ」、どっちのドアから乗る？
- ③ 江ノ電バスは「前」から乗るけど、「後ろ」から乗るバスもある？
- ④ 豊田小のある「栄区」のバス停の数は、80個よりも多い？
- ⑤ 「豊田小学校前」バス停から行ける駅は、「戸塚」と「大船」の2つだけ？
- ⑥ 「豊田小学校前」から「戸塚駅」に行く10時頃のバスは、「何分ごと」にくる？
- ⑦ 江ノ電バスは、夏休みの間、子どもは安く乗れます。さて、何円で乗れる？
- ⑧ クルマいすに乗ったまま、乗れる「バス」はあると思う？
- ⑨ クルマいすに乗ったまま、乗れる「タクシー」はあると思う？
- ⑩ 電車を使う人の数は、10年前に比べて増えている？
- ⑪ バスを使う人の数は、電車と同じく、10年前に比べて増えている？

平成28年度 横浜市立一本松小学校「交通バリアフリー教室」の実施報告

はじめに

- 横浜市都市整備局では、福祉の視点からバスへの関心を啓発し、バス利用を促進するため「交通バリアフリー教室」を行っています。今回の一本松小学校では、横浜市交通局と連携し実施しました。
- 一本松小学校は都心部に位置し、最寄りに多くの鉄道駅があります。しかし、どの駅も0.7~1.3km程度離れており、歩くには少し遠い位置関係です。
- 子どもたちの日常の移動手段は、徒歩や自転車が中心ですが、バス利用も少なくないようで、中には塾などに行くため、一人でバスを利用する子どももいました。

1 交通バリアフリー教室の全体概要

- 一本松小学校の入口が狭く、バスが学校に入れない状況であったため、学校から約1.8km離れた市営バス浅間町営業所で交通バリアフリー教室を開催することになりました。
- 小学校からバスに乗って到着した子どもたちは、そのままバスの洗車を車両の中で体験し、大歓声を上げていました。
- その後、各クラスに分かれて、①バスを用いた車いす利用体験・介助体験、死角体験、②バスの乗り方に関する紙芝居、③バスのバリアフリーに関する座学を行いました。
- 横浜市都市整備局は、③の座学でバスのバリアフリーの現状を伝えるとともに、**モビリティマネジメントの大切さ**を伝えました。



2 「バスのバリアフリーに関する座学」の内容

- 横浜市都市整備局の担当した座学では、「もっと知ってほしいバスのこと」と題して、車いすの方もお年寄りも、「誰もが使いやすい」を目指してきたバスのバリアフリーの現状を中心に授業を行いました。
- 現在、バスの利用者が減少しており、「使う人がいなくなれば、バス路線が減ってしまう」可能性もあることを、乗降者数のグラフなどを用いて伝えました。
- また「便利なクルマに頼りすぎず、バスで行ける所はバスで行く」など、心がけてほしいことを伝えました。
- 座学の最後には、「私は、誰でも自由に移動できる交通を守るために」から始まる【宣言】のスライドを示し、授業で感じたこと、気付いたことを、**自分の言葉で宣言**してもらいました。
- 「クルマばかりに頼らず、バスを使うようにしたい」とか、「車いすの人人がいたら手伝ってあげる」など、「モビリティマネジメント」や「バリアフリー」において大切な言葉を、子どもたちの口から宣言してくれました。また、紙芝居の中で、優先席の使い方の紹介があったことを受けて、「空いているときはきちんと座り、困っている人がいたら譲ってあげる」ことを宣言している子どももいました。

■座学に用いた教材

①説明用パワーポイント

誰でも自由にお出かけできる交通バリアフリーのおはなし

バスやタクシーのこと やすいうちろう?

1 2 3 4 5

②自分の言葉で「宣言」してもらうためのスライド

ということで、最後に皆さんのがんばりを…

私は、誰でも自由に移動できる交通を守るために、
することを、宣言します。

おわりに

- 今回のバリアフリー教室では、バス営業所に移動して、バスやバリアフリーのことを学ぶ、非日常的な体験学習となり、子どもたちの記憶にも残りやすい形となりました。
 - その中で、実際の体験を通じて、**車いすで移動することの大変さ**とともに、**移動の介助の難しさ、大変さ**を肌に感じたと思います。
 - 子どもたちがバスへの関心をもち、これからもバスを上手に使い、またバスで困っている人をサポートしようと考えるきっかけとなる「交通バリアフリー教室」になりました。
 - 学校以外の場所で初めて出前授業を行ったことで、子どもたちの記憶に残りやすい「場」として、また、事業者と強く連携した手法の一つとして、さらなる連携の可能性を模索するきっかけとなる取組になりました。
-

運転士さんやバス事業者の方と直接話すことができる、珍しい機会となり、積極的に話しかける子どももみられました。